

物語られている想像の中の人物でもある。だからこそ、独創・直感型ともならないし、断片・中断型ともなっていない。これが三十六人中、一〇名で、数の上では必ずしも普通とするわけにはいかない。連想の上での普通というのはいったい何であらうかなどということまで考えさせられる。

以上、十分な結論を得るところまで至らないが、こどもの連想を覗き見ることはできたように思う。

因みに、この材料として用いた教科書本文は、先に掲げた会話文のあと、

パターンと音がして、自転車がよくだおしにたおれました。
でも、自転車のたおれる前に、南君は、ぼんと、とびおりました。
「うまくなったね、たおれ方が。」
竹林君が、そう言ってわらいました。

と続いているのである。

(府中第二小学校教諭)

ス ナ ッ プ

■ 参 加 ■

私が小学五年生の国語を指導した時の失敗談である。「オリピックの父、クーベルタン」を教えた時だったかと思う。全文の主題である、クーベルタンの名言「——オリピックで大切なことは、勝つためでなく、参加することである——」ということばの中の「参加」という意味を指導した時なのである。「参加」ということばを使った短文を作らせたが、K君は、

「——雨が降って来たので、おとうさんをむかえるために、かさを持って駅へ参加しました。」と書いていた。

(高田正樹氏報告)

■ 映画会にて ■

一年生の男子、便所に行っていたのか、遅れて会場入口にやって来た。

「先生、まだ始まっているの?」

私はとたんに頭の中が目まいを起こしそうだったが、

「もう始まっているよ」

と難所を切り抜けようと、そうことばを選んだ。ところが、その子は

「だからね、まだ始まっているの?!」と答えて、あわれみを残す笑顔のままに暗幕の向こうに消えた。

(岩手県岩手郡 沼田宗友氏報告)

■ 学芸会にて ■

王様が娘の病氣のために、世界で一番の名医を、家来に探しにやらせる一幕。連れて帰ったのは医者ならぬ木こり。それに対して王様曰く、「そいつはモグリだ」と大見栄を切るところ。演技者曰く、「そいつはネズミだ」とやっ

SNAP



てしまった。

モグリ→モグラ→ネズミであったものか。

(岩手県下閉伊郡岩泉町国見中学校 伊東広太郎氏報告)

■ あぶりだし ■

三年生国語教科書に「みかんのしるをしぼって」とあるのを、おかしいと言いだした子があった。「じゃ、どう

言えばいいの?」とたずねると、「みかんをしぼってならいい」と胸を張った。

(宮城県桃生郡北上町 伊藤よし子氏報告)

■ 自分のものにする ■

五年生の授業中のことである。揭示係の斎藤君、慣例によって、写真ニュースを貼り出す前にクラスに説明する。うまく説明できないので、私は、「まず自分のものにしてから説明しなさい」と注意を興えた。ところが、それから後、一向に説明も貼り出しもしなくなってしまう。その児童に理由を求めたが要領を得ない。母親に聞いた。何たることか。子どもはいっぱい資料を持ち帰っていたのである。自分のものにするために。

(木内計二氏報告)

■ コチラアンブ ■

お隣の敏男君(四才七か月)、わが家の伴の指導を得て、庭先でトランシーバーの猛訓練を受けている。

「オートーセヨ、オートーセヨ」もどうかと思つたが、「コチラアンブ」に至っては、聞く方がつらくなった。(丁)

ス ナ ッ プ